

しんがた 新型コロナウイルス感染症 かんせんしょう けいざいたいさく くらし・経済対策 (9月補正予算) ほせいよさん

しみん いりょう 市民と医療を まもる

かんせんかくだい
感染拡大をおさえて、
いりょうたいせい かくほ
医療体制を確保します

よこはま けいざい 横浜の経済と しみんせいかつ 市民生活をまもる

けいざい
経済をまた元気にするために、
きぎょう しえん
企業を支援し、
こよう
雇用をまもります

にちじょう 新しい日常に とりくむ

ちいき ぎょうせい
学校・地域・行政で、
デジタル化などを進めます



※くわしいことは、2ページ、3ページを見てください

せいかつ 新しい生活のしかたをとりいれましょう

あらか
マスクをする・手をよく洗う・
しょうどく かんき
消毒する・換気をする

みっぺい みっしゅう みっせつ
密閉・密集・密接に
ならないようにする

しよくじ
集まって食事をしたり、
さけ
お酒を飲んだりするのをやめる

よこはましんがた
横浜市新型コロナウイルス感染症コールセンター

TEL:045-550-5530 FAX:045-664-7296(毎日9:00~21:00)

しんがた
新型コロナウイルス感染症帰国者・接触者相談センター

TEL:045-664-7761 FAX:045-664-7296(毎日9:00~21:00)

イベントに参加するときは、かならずマスクをしてください。

体のぐあいが悪いときや、熱があるときは、イベントに行かないでください。

イベントでは、手を消毒したり、熱をはかったりするようにおねがいすることがあります。協力してください。

コロナといっしょの秋

きびしい夏の暑さがやわらいて、朝晩すずしくなりました。今年の秋は、お祭りや運動会を開くのがむずかしいので、これまでとはちがう秋だと感じる人も多いでしょう。

それでも、地域では、町のおそうじや防犯パトロールがまた始まっています。コロナがはやっている、地域でつながっていけるように、会合をオンラインで行うとりくみもあります。お店や飲食店では、手の消毒や、空気の入替えをしっかりと行っています。つばなどの飛沫で感染しないように、アクリル板をとりつけるところもあります。みんながコロナととりくんで、毎日の生活や活動をとりもどすために、がんばっています。ご協力ほんとうにありがとうございます。

横浜市では、5月と6月に「くらし・経済対策」として予算をつくりました。9月にも合計169億円の補正予算を組んで、「感染症対策の強化」と「経済をまた元気に」の両方にとりくんでいきます。また「新しい生活のしかた」をとりいれた社会づくりをして、自治会町内会の新しい活動のしかたや、感染症対策にとりくむ事業者のみなさんを応援していきます。



よこはましちょう
横浜市
はやし ふみこ
林 文子

ズーラシアのとなりの里山ガーデンでは、「秋の山里ガーデンフェスタ」が開かれています。およそ120品種25万本の秋の花がさいています。家にも見られるように、会場の映像も配信しています。「横浜WEBステージ」のサイトでは、横浜みなとみらいホールをメイン会場にして、トップアーティストの迫力ある演奏を楽しむことができます。こんなときだからこそ、新しいかたちで、自然や芸術などを楽しめるようにしていきます。

みなさん、しっかり感染症の対策をして、じゅうじつした秋をすごしてください。

新型コロナウイルス感染症 暮らし・経済対策 (9月の補正予算)

横浜市では、新型コロナウイルス感染症に対応するために、「暮らし・経済対策」として5月と6月に補正予算をつくりました。9月にも、合わせて169億円の補正予算を組みました。これを使って、感染拡大をふせいで、医療提供体制を確保します。そして経済をまた元気にするために、企業への支援、雇用の問題への支援、学校・地域・行政のデジタル化などを進めていきます。

ほかにも、さまざまな支援があります。くわしいことはウェブページを見てください。



横浜市暮らし・経済

検索

それぞれのとりくみについて、問い合わせはこちらから。



しみん いりょう 市民と医療をまもる



新型コロナウイルス感染症の検査や、相談をやすくしていきます。

患者受入医療機関支援

市民が横浜市に検査の相談をしたときに、検査を受けさせてくれる診療所に、検査の回数によって支援金を出します。

【支援金の金額】
検査件数によって、1か月に10～30万円

帰国者・接触者外来支援

帰国者・接触者外来を開いている医療機関にたいして、保健所からたのまれたときに、受けいれる患者の数によって、支援金を出します。

【支援金の金額】
患者など1人あたり2万円

患者搬送体制強化

検査を受ける人がスムーズに検査をする場所に行けるように、患者の移動用の車の台数をふやします。

【対象になる人】
自分や家族が自家用車を運転できない人

医療機関でしっかり受けいれができるようにします

症状が重い患者・中ぐらいの患者の受けいれ体制を整備

入院が必要な患者が確実に入院できるように、病院が医療機器などを買う費用を助成します。

【対象になる病院など】
① おもに症状が重い患者・中ぐらいの患者を受けいれる病院15か所
② ①以外の病院15か所
【助成額】①500万円 ②200万円

症状が重い患者・中ぐらいの患者の入院受けいれ奨励

陽性患者などを受けいれた病院に支援金を出します。

Y-CERT強化

4月に「感染症・医療調整本部(Y-CERT)」ができました。横浜市災害医療アドバイザーの協力を受けながら、運用をつづけます。医療崩壊を止めて、地域の医療がつづけられるようにします。

医療従事者の支援

医療の最前線でがんばっている医療従事者には寄付金がよせられています。新型コロナウイルス感染症の患者を受けいれた病院ではたらく人たちを支援します。

【対象になる病院など】
① おもに症状が重い患者・中ぐらいの患者を受けいれる病院15か所
② ①以外の病院15か所
【支援額の上限】
①1,000万円 ②500万円

新型コロナウイルス感染症の検査と受けいれ

新型コロナウイルス感染症の検査

「暮らし・経済対策」の補正予算を使って、外国から帰ってきた人や、濃厚接触した人以外でも、かかりつけ医などの診察で新型コロナウイルス感染症の可能性があるとわかったら、近くの病院などで検査を受けられるようにしていきます。保健所を通さなくても受けられます。

今では、PCR検査のほか、LAMP法検査、抗原検査なども行われています。唾液(つば)でする検査もできるようになりました。横浜市で検査を受ける人の数は、4月とくらべて、大きくふえています。

※最新の情報は、ウェブページで見てください。

横浜市内の陽性患者の発生状況データ・相談件数

検索

症状が重い患者・中ぐらいの患者の受けいれ

市内の病院の協力で、4月に、症状が重い患者・中ぐらいの患者を受けいれるベッドを500確保しました。感染が拡大したときでも、入院する人はだいたいいつも100人くらいだったので、じゅうぶんでした。

これからまた流行がひどくなっても、ベッド数を確保して、「感染症・医療調整本部(Y-CERT)」が調整します。ふつうの地域の医療と、新型コロナウイルス感染症の医療を両方ともしっかり行っていきます。



▲感染症・医療調整本部(Y-CERT)

よこはま けいざい しみんせいかつ 横浜の経済と市民生活をまもる



ぎぎょう しえん よこはま けいざい ささ 企業を支援し、横浜の経済を支えます

「新しい生活のしかた」に とりくむ中小企業を支援

中小企業が感染防止対策などにとりくむと、お金がかかります。必要なものを買ったり、建物の中の工事をしたりする経費の助成をさらに4,000件行います(市内の事業所から買うことが条件です)。

【補助の割合と上限】

中小企業…10分の9、30万円まで
個人事業主…10分の9、15万円まで

【事前エントリーの受付】

第2回: 10月12日(月よう)～10月16日(金よう)
第3回: 10月19日(月よう)～10月30日(金よう)

※事前エントリーは、第1回(8月)～第3回のあいだに一度しかできません。

MICE誘致・開催支援

MICE主催者に、開催費用の一部を助成して、安全・安心なMICE開催を進めます。

【対象になる経費】

会場費、オンライン開催費、感染症予防対策費など

【上限】費用の3分の2、1,000万円まで

新型コロナウイルス感染症 対応信用保証料助成

企業は、「新型コロナウイルス感染症緊急特別資金」などを利用するとき、信用保証協会に信用保証料をします。その信用保証料のお金を補助します。期間は10月末までです。

【対象になる人】国が決めた実質無利子融資の上限をこえて、横浜市「新型コロナウイルス感染症緊急特別資金」などを利用する市内の中小企業

【信用保証料助成の割合】

売上がどのくらいあったかによって、4分の1、2分の1、10分の10

こよう じゅうきょ しみんせいかつ ささ 雇用と住居をまもって、市民生活を支えます

緊急雇用創出

感染が広がっているために、失業率と有効求人倍率が悪くなっています。解雇される人も、これからふえるでしょう。こういう雇用情勢に対応するために、横浜市では緊急雇用を行います。

【対象になる人】市内に住んでいる人で、仕事をしなかった人、内定がとりけしになった人など

WEB合同就職面接会

コロナがはやっているなかで、人がたくさん集まらなくてもいいように、ウェブを使って、就職の面接会をします。

【対象になる人】

- ① 新しく大学を卒業する人など
- ② 雇用が悪化して、つぎの仕事をさがしている一般の人など

【スケジュール】①2021年2月②2021年3月

生活困窮者自立支援 (住居確保給付金)

仕事なくなったために、住むところがなくなった人、住むところがなくなるかもしれない人に、一定の期間、家賃の金額を出すのが住居確保給付金です。お金を受けとれる人の数をふやします。

【対象になる人】仕事なくなってから2年以内の人、休業になって収入が大きくへった人(収入の要件があります)

にちじょう 新しい日常にとりくむ



かんきょう 学校のICT環境をととのえます

学校のICT環境整備

市立学校で1人1台の端末が使えるようにして、教育にICT(情報・コミュニケーション・テクノロジー)をとりいれます。学校のLAN環境の整備も進めます。

ちいき か しえん 地域のデジタル化を支援します

地域ケアプラザなどの ICT環境整備

「新しい生活のしかた」にしたがって、オンラインで講座や会議、相談などができるようにします。地域ケアプラザ・福祉保健活動拠点にICT環境づくりに必要なお金を補助します。

自治会町内会 新しい活動スタイル応援

「新しい生活のしかた」をしながら、地域のみなさんが力をあわせられるように、自治会町内会の活動を応援します。ICTを使った新しい活動ができるようにします。

【対象】地区連合町内会(253団体)

【内容】ICTを使って会議をしたり、情報をつたえることができるように、地域のニーズに合わせて、講座を開いたり、相談を受けたりします。

ICTを活用して郊外住宅団地の 新しいつながりをつくる

新型コロナウイルス感染症の影響で、団地のお年よりがひとりぼっちになって、問題になっています。地域の医療や介護サービスをする事業者が中心になって、「新しい生活のしかた」に合わせて、住民どうしがつながれるように、活動しています。市でもそれを支援していきます。